

有人潜水調査船しんかい2000を活用した連動プログラムについて

○杉村 誠・北田 貢・根本 卓・北嶋 円・小谷野 有加・鈴木 良博・櫻井 徹
(新江ノ島水族館)

協力：元しんかい2000 運航チーム有志の皆様

国立研究開発法人海洋研究開発機構（以降、JAMSTEC）は、2004年3月に退役となったしんかい2000を集客力の高い機構外の科学館・水族館での展示を行うべく外部展示機関の募集を行った。新江ノ島水族館が選出され「深海Ⅱ～しんかい2000～」（以後、深海Ⅱ）を新設して、2012年7月14日よりしんかい2000の実機展示を開始した。新江ノ島水族館では、2003年よりJAMSTECと共同で「深海生物の長期飼育方法に関する研究開発」を行っており、潜水船によって採集された深海生物の飼育研究を行うと共に水族館ならではの展示やプログラムを通じて、深海研究の普及活動を行ってきた。ここでは、しんかい2000を活用して新たに行った連動プログラムについて報告する。

深海Ⅱでは、しんかい2000の実機をはじめとして内部構造や研究成果、JAMSTECの解説の他に、深海生物の標本、コクピットシュミレータ、世界の潜水船模型などの展示を行い、深海研究の歴史と今、そして未来へと繋がる展示構成になっている。展示室内にはプロジェクター及び放送設備を完備し、様々なプログラムに対応できるようになっている。実機の展示開始から2017年10月までに行った「深海」をテーマにした一般向けプログラムは42回、そのうち「しんかい2000」と連動したプログラムは21回であり、全体の半数を占めた。今後も開催を継続的に予定している。連動プログラムの構成は様々で、深海生物や潜水船をモチーフにしたもの作りから講話・体験（BE2013 根本ら）、大学との連携プログラム、実機の公開整備や乗船体験など多岐にわたっている。その中でも実機を使用する公開整備は2017年7月に10回（2回/年）の開催を数え、展示室内で行う自由参加型のプログラムである。元しんかい2000 運航チームの方々のご協力を受けて外皮の張り替え作業や部品交換、ペイロードの取り付け、年末には内部清掃などの実演を行っている。また、プロジェクターを使用して深海調査の実際や成果なども現場の視点から紹介している。手を伸ばせば触れるほどの距離での整備作業、元運航チームの方々と会話も楽しめる為、毎回展示室が満員になるプログラムである。乗船体験は5回の開催で公開整備に次いで多く、定例化しつつある人数限定の参加体験型プログラムである。開催時間と安全上の問題から、1回の参加人数は12名とし身長制限などの条件を設けたが、当選率3.8～13.5倍ととても人気が高かった。参加者からは覗き窓から覗き見る視界の広さ、びっしり詰まった計器の数々に机上では感じる事の出来ない「本物」への感動の声が多く寄せられた。

しんかい2000と連動してこれまでにないリアリティのあるプログラムを展開することで、参加者に大きな感動と、深海研究の難しさや楽しさ、興味関心、魅力について伝えられたのではないかと考える。2017年8月にはこのようなプログラムによる普及活動も評価の対象となり、しんかい2000は日本機械学会より「機械遺産」の認定を受け、新江ノ島水族館宛にも感謝状を頂いた。今後も様々な角度から、継続して深海について注目してもらえるように努めていきたい。



しんかい 2000 公開整備の様子



しんかい 2000 乗船体験の様子